

領域	評価の観点	評価項目	実践目標	学校関係者評価委員意見	
学校運営	開かれた学校づくり	保護者・地域等への情報発信等	1	ホームページや各種通信等により、適宜、保護者・地域への情報提供を行う。	①ホームページを見せてもらっているが、学校の様子がよく分かるものとなっている。ただ、頻りに更新されているものと、古い情報のままのものが混在しているので、ホームページの管理責任者が適時、適切に更新を促していくことが必要ではないか。 ②情報発信(広報活動)は、今後一層重要な課題となるため、改善策の一つひとつを着実に進めていただきたい。
			2	中高連絡会等を実施し、学校の取組等について詳細な情報提供を行う。	①近年ミニコミ紙や受験生の保護者向けの情報誌等で学校説明会やオープンハイスクールの活用方法が特集されている記事を見ることがある。受験生向けのプログラムも大切だが、保護者向けのプログラムもぜひ工夫すると一層魅力あるものとなるのではないかと。 ②オープン・ハイスクール実施について、中学生の参加を考慮するならば、土曜日に設定する方向で検討。
			3	設置趣旨を踏まえ、学校の教育活動等について、県のみならず他府県等にも、広く情報提供を行う。	①ホームページの学校長のページを見せてもらうと様々な機会に本校の設置趣旨から、現状までを発信しておられ、全国的な注目も集めている様子がわかる。障害のある生徒とともに学ぶ多部制高等学校ならではの課題意識は、今後の教育の方向性を指し示すものとなるはずである。これからも機会を捉えて適切な情報発信の努力をお願いしたい。 ②管理職を中心に継続して情報提供に努めていただきたい。
			4	高校生地域貢献事業や学校行事等を通じ、学校近隣地域の美化等に貢献する。	①近隣に大きな団地を抱えた立地からも地域住民に本校の教育活動に理解をいただくことは重要なことである。美化活動等の地域貢献事業を通じて、住民に生徒や職員の姿を見せることは学校理解を促進するうえでも貴重な機会である。学校行事への参加要請も含め、地域住民を取り込む工夫を一層お願いしたい。
			5	地域の活動等に対し、学校体育施設を開放する。	①積極的に学校施設の開放が行われ、評価点は昨年度に比して大きく向上した。教職員の負担軽減も考慮し、改善を重ねてほしい。
	円滑な学校運営	各種会議等の実施及び連携	6	学校評議員会を各学期に実施し、意見聴取等を通じて学校運営の改善に活用する。	①会議日程などについて事前に調整していただかないと、出席は難しいと思います。 ②学校評議員として適切で、ほぼ毎出席が可能な方に委嘱する。 ③「学校評議員制度の活用」に関する2つの評価項目(6,7)ともに昨年度に比較して評価点が低下している。具体的な改善が望まれる。
			7	評議員の学校行事等への参加を通じ、教育活動等の改善を図る。	①学校評議員は、本校をより理解するため年に数回は授業や行事への参観・参加をした方がよい。
			8	年次会や各委員会等を適切に実施し、職員の間で共通理解を図る。	①時間的に会議の時間を確保することが難しいことは容易に想像できます。そのためにも会議資料の簡略化と会議時間の短縮化に知恵と工夫が必要かと思えます。
			9	校務運営委員会や職員会議等を通じ、各部・委員会等の意見調整を行い、円滑な校務運営を推進する。	①8に同じ

領域	評価の観点	評価項目	実践目標	学校関係者評価委員意見
学校運営（続き）	勤務時間の適正化	業務のIT化・効率化	10 教務支援システムを導入し、生徒の出欠管理や成績処理、諸帳票の作成等に係る業務の効率化を図る。	①一方で、個人情報の管理を一層徹底することが望まれます。 ②「勤務時間の適正化」に関する2項目(10,11)は、評価平均も向上し、改善されたことが伺える。
		超過勤務の縮減	11 ノー残業デーの設定等により、教職員の超過勤務の縮減を図る。	①ノー残業デーが有効に機能しているとの評価ですので、何よりです。しかしながら、教職員によっては仕事を抱え込みすぎているとか、能率がよくないとかの理由から業務過多に陥っているケースはないか等管理職により配慮も必要かと思えます。
	生徒指導	生徒指導体制の充実	12 生徒指導方針について、全職員の共通理解を図り、一体となった指導体制を整備する。	①生徒数が増えるにつれ、より困難で対応することが難しい生徒指導案件が増えることが予想されます。生徒指導は即時性が問われると同時に、教員間に対応の差があることも問題となります。「共通理解」をどのように図っていくのか、一層の努力をお願いします。
			13 関係機関等との連携を密にし、より実効性のある生徒指導に努める。	①専門家に委ねた方がよいケースも多々あると思えます。日ごろから、関係機関とのコミュニケーションを取り、いざという時に、すぐに連絡、対応できる態勢を整えておくことが重要であると思えます。
		生徒の内面理解を図る指導の推進	14 必要に応じ、個人面談や家庭訪問等を実施し、生徒への理解を深める。	①担任の先生方には大変重い仕事になるが、生徒との個人面談を通して得られる情報は多く、きめ細かにやることで、生徒理解が深まることは間違い無い。面談の時間をどのように工夫するか等課題は多いが、一層努力願いたい。
			15 高校生心のサポートシステムを活用し、キャンパスカウンセラー等による研修会の実施等を通じて指導法等の共通理解を図る。	特になし
	生徒の自主性を育む指導の推進	16 生徒会を中心に、行事や部活動の運営に取り組み、生徒の自主的な活動の機会を設定する。	①生徒会を育てるには、明確な育成方針をもって取り組む必要があり、たやすい仕事ではない。しかしながら、一定の見識を持った執行部の場合は、大きな力となる場合も考えられる。計画的、持続的な指導を工夫願いたい。 ②全評価項目の中で評価点2を付けた教職員(15名)が最も多い。来年度はさらに生徒数が増えるため、生徒会等による自主的な活動を促す指導に一層取り組む必要がある。	
	進路指導	進路指導体制の充実	17 生徒の卒業を見据えた進路指導計画を作成する。	①キャリア教育推進委員会を中心に生徒たちのキャリア形成を考えていくことになるようですが、現下の社会状況はまだまだ厳しく、就職試験では「何を学んだので、どのようなことができるのか」が厳しく問われています。早くから、就業意識を高め、自分の言葉で自分を表現できるようにすることが必要です。そのために、どのような訓練をしていくかが今後の課題ではないでしょうか。 ②来年度は進路指導が学校運営上重点課題となる。キャリア教育推進委員会を中心に、課題及び改善策を踏まえ充実した進路指導を個々の生徒のニーズに対応し、推進していただきたい。
			18 外部講師等による進路講演会等を実施し、生徒の職業観の醸成を図る。	特になし

領域	評価の観点	評価項目	実践目標	学校関係者評価委員意見	
学校運営（続き）	教職員の資質向上	教科指導力の向上	19 公開授業週間の設定等により、教職員相互の教科指導力の向上を図る。	①研究授業により授業改善を図られていることは大いに評価したいと思います。生徒に「勉強はしんどいけど、おもしろい」と思わせる工夫が求められます。授業改善の一層の推進をお願いします。 ②成果と課題及び改善策に記述されている内容に温度差を感じる。多部制高校の学校運営上の課題として解決すべきか。	
		校内研修の実施	20 学校等の諸課題について、適宜、研修会を実施し、教職員全体の資質向上を図る。	①時間のない中で、研修会等を有効に開催することは難しいと思われます。少なくとも、情報提供をきちんと行い、それが全職員に確実に届く方法を考えることがいると思います。	
		校外研修の活用	21 年次研修等を活用し、教職員のライフステージや社会の変化等に対応した資質の向上に努める。	①この評価項目は「校外研修の活用」ではあるが、「校外研修」に合致した成果や課題・改善策が記述されていない。	
	危機管理体制の整備	危機管理マニュアルの策定	22 学校の実情に応じた危機管理マニュアルを策定し、適宜、実際の対応への訓練等を行う。	①危機管理は知識より意識だとよく言われます。おざなりではない訓練をきちんと行うことが一番効果的だと思います。	
		家庭等と連携した危機管理体制の充実	23 家庭・地域・関係機関等との連携を密にし、実情に応じた危機管理体制を構築する。	特になし	
		生徒の危機管理意識の醸成	24 危機管理について、適宜、生徒への情報提供を行い、生徒の危機管理意識の向上を図る。	特になし	
	教育課程	基礎・基本の徹底	生徒の学力把握と評価基準の設定	25 小テスト等を活用し、生徒の学力把握に努めるとともに、各教科で適切な評価基準に基づいた評価を実施する。	①小テスト、基礎学力テスト等様々な工夫をしながら、基礎力の向上に努められている様子がわかります。どうにもならないと、あきらめるのではなく、何かしら試みるところから、少しずつ「変わってきた」を感じることはあるのではないのでしょうか。倦まず弛まず工夫を続けることしかないと思います。 ②学習意欲や学力が低下した生徒と同等に、それらの高い生徒についても適正に把握、評価する。
			個に応じた学習指導の充実	26 少人数授業を実施し、生徒一人ひとりの学習状況に応じた指導を行うとともに、必要に応じて、補習等を実施する。	①相当な学力差があると考えられる中、小中で学ぶ意欲をうしなってしまう生徒に対するケアは大変な労力が必要とされると思います。学び直し講座や補習等のアイデアを具体化していく工夫をお願いします。 ②大学受験を希望する生徒に対しても少人数制や補習等の工夫で学力の向上を図る。
		特色ある教育課程の編成	多様なニーズに対応した教育課程	27 生徒の幅広い学習ニーズに対応した教育課程の編成を推進する。	①まだまだ教員の数も限られる中、多様な教育課程の編成には難しい問題もあると思いますが、多様な生徒の多様なニーズに応える本校の原点に立ち返り、工夫をお願いします。 この評価項目は、本年度は昨年度より評価点はやや低下した。来年度はさらに生徒数は増え、個人差が大きく、幅広い学習ニーズにどう対応するか、限られた条件の中ではあるが、体制づくりが急務である。
計画的な学習等の指導			28 生徒の学習状況等に応じた受講ガイダンスを行い、計画的な学習等についての指導を行う。	特になし	

領域	評価の観点	評価項目	実践目標	学校関係者評価委員意見	
教育課程（続き）	総合的な学習の時間	創意工夫を生かした取組	29	学校の特色等を踏まえた学習テーマを設定し、計画的に取り組む。	①「自己表現能力の向上」をテーマにした授業計画を立てることができた、と自己評価にあるが、キャリア形成を目指すうえでは欠くことのできない能力なので、一層力強く推進願いたい。
			30	生活体験発表会等を活用し、生徒の体験等に基づいた取組を推進する。	特になし
		教職員の共同体制の確立	31	総合的な学習の時間に係る計画等について、委員会等を通じ、教職員の共通理解を図る。	①評価点平均が昨年度より大きく向上している。教職員が努力して取り組まれたことが伺える。
課題教育	交流及び共同学習	両校の共同体制の構築	32	交流及び共同学習に係る委員会等を実施し、両校職員の共通理解を図る。	①自己評価の記述の中に、「制約もあり難しいがもっと多くの先生方に交流および共同学習の参加を促す機会があつて欲しい」とあるが、同感である。 ②「交流及び共同学習」に関わる4つの評価項目(32,33,34,35)の評価点は昨年度とほぼ同様である。課題及び改善策に記述されているが、両校教職員の交流を促進する必要もあるだろう。同時に、同一敷地に設立された2校であるが、一定の制約もあるだろうし共同体制の構築の難しさを感じる。
		共同の学びの拡充	33	両校生徒が共に学ぶ教科・科目や学習形態等について、研究等を進めながら、その拡充を図る。	①来年度はタイプCやタイプDの学習形態についても取り組んでいただきたい。
		共同の学校行事の拡充	34	校内で実施する行事だけでなく、遠足等、校外で実施する行事についても、両校共同で行うよう取組を推進する。	①評価点2を付けた教職員が比較的多い。両校の生徒たちが行事等で単に同一の場を共有するだけにとどまらず、生徒たち相互の関係性が高まる方向で取り組んでいただきたい。
		両校生徒による部活動の実施	35	同じ部活動において、両校生徒が、ともに練習等に取り組む、交流や相互理解を深める。	特になし
	ノーマライゼーション教育	創意工夫を生かした取組	36	学校の特色等を踏まえ、学校設定教科・科目において、関係機関等と連携した取組を推進する。	①ホームページでノーマライゼーション通信を読ませてもらっているが、よく工夫され意義ある科目として育てていると思う。この科目にとって外部講師は必要不可欠であると思われるので、今後もテーマにあった外部講師の選定をお願いした。 ②「ノーマライゼーション教育」の評価項目(36,37,38)は全体の評価平均点よりいずれも高い。特に2つの評価項目(36,37)について評価点4を付けた教職員非常に多い(26名)。多くの教職員が積極的に取り組まれたことが伺える。来年度も充実した実践を推進していただきたい。ただ、この評価に関わる改善策が記述されていない理由があるのだろうか。「対人援助」の授業実践についてさらに検討を進めてほしい。
37			座学にとどまらず、手話の学習等、体験的な学習の実施を推進する。	特になし	
教職員の共同体制の確立		38	ノーマライゼーション教育の推進に係る取組等について、委員会等を通じ、教職員の共通理解を図る。	①ノーマライゼーションの意義を折に触れ、確認することで、職員の中に高い意識が生まれるのではないかと思います。今後も力強く推進してもらいたい。	